

波路遙ニ幽也、十市ノ里ニ搗砧、旅寢ノ夢ヲ覺シケリ、ヨハリ行蟲音、吹シホル風ノ音、何事ニ付テモ、藻ニスム蟲ノ風情シテ、我カラ音ヲゾナカレケル、更行秋ノ哀サハ、何國モト云ナガラ、旅ノ空コソ悲ケレ、冷行月ニアクガレテ各心ヲ澄シツ、歌ヲヨミ連歌セラレケルニモ、都ノ戀シサアナガチ也、會紙ヲ勸メケルニ、寄月戀ト云題ニテ、薩摩守忠度、

月ヲ見シコゾノコヨヒノ友ノミヤ都ニ我ヲ思ヒ出ラン○中各加様ニ思ツゞケ給ヒテモ、互ニ御目ヲ見合テ、直垂ノ袖ヲゾ絞ラレケル、

〔吾妻鏡二十三〕建保六年九月十三日辛巳、明月夜御所和歌御會也、一條羽林、李部已下好士七八輩、被候其座、

〔年中恒例記〕九月十三日 明月御祝參於内儀也、加きこしめさる、御祝調進儀、八月十五日同、

〔江戸鹿子年二〕中行事九月 同夜○十日 月見舟遊山

〔東都歲事記三〕九月 十三日 看月後の月宴といふ、衣被、船中月見多し、

〔浪花の風〕十三夜には團子を製することなし、うで豆一式を多く調へ置て、家内、下女、下男迄に、多く是を食はしむ、故に十三夜の月を、市中にて豆名月といふ、

九月九日 殘菊宴 併入

九月九日ハ重陽ト稱ス、朝廷ニテハ、天皇紫宸殿ニ出御シテ、菊花宴ヲ臣下ニ賜フ、之ヲ小儀ト爲ス、若シ宴會ヲ停メテ出御セザル時ハ、上卿宜陽殿ノ平敷座ニ著シテ、菊酒ヲ侍臣ニ賜フ、之ヲ平座ト云フ、幕府ニテモ亦此日ヲ祝日ト爲シ、諸侯登城シテ之ヲ賀ス、後世民間ニテハ、親戚朋友ノ間ニ粟子ヲ贈遺シ、又菊酒ヲ飲ムヲ以テ、栗節供、又菊節供ト稱シテ之ヲ祝セ